

編輯部報情閣内

寫真週報

五月四日號 十セ

若人け 築け大陸日本
ガソリン一滴は血の一滴



北京真実山公園

昭和十三年五月四日發行 (毎週一回水曜日發行) 第十二號



天皇陛下には四月二十六日靖國神社臨時大祭第二日
の儀に行幸
畏くも 護國の神々と新祭祀の祭神四千五百三十三
柱の靈前に親しく御拜あらせられた





英靈に
應へよ
靖國神社大祭

靖國神社大祭に際して、靖國神社の境内に、五月十二日の靖國神社臨時大祭にさきだつて四月廿四日、合祀された。事變は既に軍なる武力の衝突を脱し、思慮、無言、黙秘、外交等の一切にわたり、國家の力能する所をとり、しかもその性質は持久長期にわたるべく、わが國の前途には幾多の困難が横たはつてゐる。この秋にあたり我々はこゝに、ひたすら、天皇の大御心を奉敬し、皇國の第一途に邁進し、死んで至極の魂を奉られた靖國神社の上に思を致し、これを靈魂として心魂を導き、臣道を大いに開拓するところがなくてはならぬ。



國民の熱血的尊厳を捧ぐる我が別格官制大社靖國神社は九段坂上帝都を俯瞰する位置にある。合祀と参拜者は絶えない。聖徳廣る神域は、二十五日、前夜の招魂式に引きつゞき臨時大祭第一日を迎へた。春の雨がしとしとと玉砂利を濡れる中を、勅使参向、在京部隊の参拜があつた。



廿五日、清浄の雨は夜に入るもなほやまず、露に光る玉砂利を踏んで父祖英靈の無言の訓への前に青年訓練所員も恭々しく膝をさしげた。
胸の上には遺族家、胸の奥には日本國民の情りも高らか、今はなきわが子、わが兄を偲びつゝ、國の神に詣でる。
あか／＼と篝火は笑かれ、廿四日午後八時から新らしき英靈の遺族行列の下に鈴木新宮司司祭、招魂式は厳かに行はれた。

今事變中上海にあつて終始好意をもつて推移を見、わが正當の立場を眼のあたりに瀟灑して來た盟邦イタリーの東洋艦隊旗艦モンテ・カッコーが、東京組の將校、水兵さんたちは在京中の一日をさいして、靖國神社に参拜、武士の情、英はしき友情をはなむけとした。



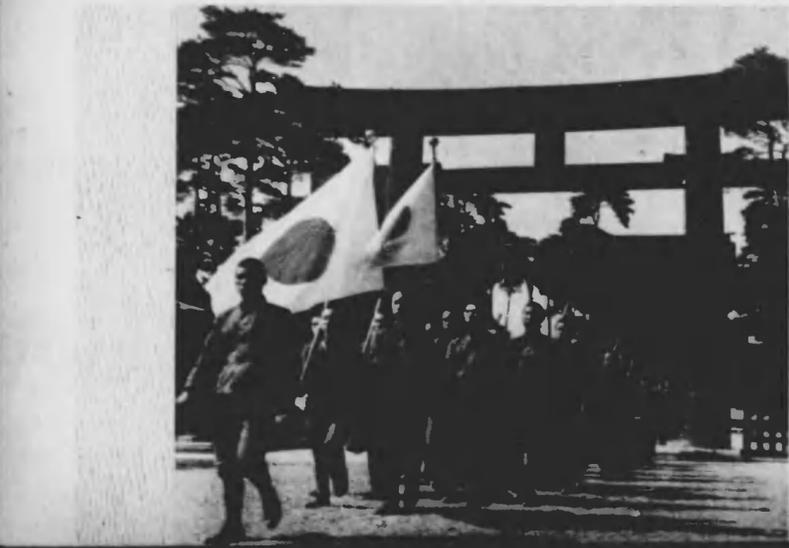


帝都を あとに

□ 宮城も、しっかりと踵に焼きつけた。
大日章旗を先頭に、次の行程へ、宮城前廣場の行進。



□ 宮城を押し、明治神宮に所り、靖國神社に登つて、今は、心も軽く、思ひ残すこともない。
東京驛頭に、同志と隊伍を組めば、理想は輝ける雲の彼方。
いざゆかん、亞細亞！
いざとめん、新日本の天地！



□ 我等の行手、明治大帝も護らせ給へ——と、明治神宮の神域に所りを捧げて社殿を辭す一行。

□ 水つく屍、草むす屍
鉄軌の車と思ひは同じ、大君の爲、日本の爲、旗を掲げて演業の土とならう、と、宮城前に赤心傾けて誓ひを捧げるその姿の、何と尊くも氣高いことよ。

□ フラズバンドを先頭に、帝都を行進する開拓青少年團。
この足どりは、滿蒙に朽き、この歩武は、絶え間なく、伸びる日本の歴史を踏む。



↑ 大連亞細亞の大地
見はるかす彼方たゞ
未だの原野だ。
せまい日本に比べ
て、何と雄大な墳
墓の地であらう。
風々と吹く大陸の
風もうれしく、しば
し行けば、幹すぞ、
横取り幹すぞと、新
しく生きる力が、足
の先から、ぐんと湧
き上がる。

↑ 恩愛の絆を断つて
滑り来る列車。父が
結が、聲を限り叫
ぶ、萬歳も、ともす
ればかすれる別れの
瞬間—われを忘れ
て落す涙、涙。
だが、その時、泣
く奴があるかと、威
しい響きの平手が、
ビシヤリと頤に鳴り
空さへ開くを許さな
い。壮なる門出。



↑ 星をいたゞいて歸る原野の夕暮、よと
見る此の時計の駒子に、父母の面影を寓
す時もあらう。又、悔念に眠れぬ夜ごと
記念の此の時計をひしと抱いて、舞々ナ
る時もあらう。
今兄さんが心をこめて贈る時計。

大陸へ！
さようなら



↑ 故國に残す最後の
姿。今、寫眞師の撮る
シャッターが、少年
達の短かつた日本で
の人生へ、からり、
と終止符をうつ。
「さあ、皆笑つて撮
らう。」
と、駐氣にうなが
す少年の言葉に、は
らからみ涙の涙を
かくして。

↑ 「俺も行くから、お
前も来い」
弟を同車に乗せて
載れながら、ふと口
ずさむ、歌の二節。
又逢ふ時は、十年
後か、二十年後か。

↑ 日本の種り、大陸
の種り—幾多の聖
戦に魂の鬼となつ
た英雄へ「誓ひ」の
祈りを捧ぐべく、神
前に進む、開拓青少
年團の厳かな隊列。





□ どの顔も、どの顔も、不屈の意志が
 ときつと結ばれ、満蒙の土となる覚悟が
 眉宇に帯えてゐる。
 行け、少年日本！未来は君等のものだ

□ 雄闘を前に、莞爾と笑ふその顔の逞し
 さ、日の丸の鉢巻、がつしり振る大日章
 旗も、此の雄々しい姿にこそ、一きは映
 えて

□ 「おちさん見て下さい」と、とり出した
 茶碗は父が日露の戦役に、兄が滿洲事變
 に携へた傳家の一より。



移民花嫁學校



長野縣教育委員長 長野縣民衆教育委員

亜細亞に拓く人生の精力者、
 拓日本男子の同伴者として、
 全日本の女性に、新しい使命が
 興へられた。
 日本女性の持つ、愛で育む
 美しい心機は、そのまま、土を
 拓く力となる。
 「大陸日本一の遊牧は、男にだ
 け興へられた仕事ではない。大
 きなふところを備えた大陸へ、
 女子もまた大活躍して進出さ
 なければならぬ。」
 長野縣民衆教育委員の長野縣民衆
 拓四年から設けられた女子部
 は、華僑移民の花嫁學校を開設
 以来、移民女性立派に訓練さ
 れ、華僑の使命として、新
 亜細亞に拓く青春の夢は大きい。



強い精神力の缺如が
 古い日本の移民を満蒙
 から歸らせた。
 精神所に、永遠の生
 命を信じ、人生を悟る
 動行、經文を唱和する
 者、彼女達の勇気ある
 心のそのうな朝々と響く
 聲が、曠野の静い空気に
 溶けこんでゆく。

ひかうへ行けば牛も
 飼はう、乳もしばらう
 わが子のために、夫の
 ために。朝の食前、豊
 かな牛の乳房をさつさ
 つと絞れば高原の朝風
 は爽やかに乙女の頬を
 なで春を告げてゆく。

香茶の入れ方 華
 華な茶の湯のお手前は
 私達には不用だ。開學
 者の花嫁は香茶のお作
 法に實質的な修養を興
 へられる。



朝飯がすむと、露を
 踏んで開學の實習へ。
 まだ春の淡雪をまよつ
 た八ヶ岳が花嫁候補生
 を送る。「前へ！一丸い
 肩に飯、開學者の武器
 がおどる。夫と共に満
 蒙の土を踏みしめる日
 は何時。夫に並んで共
 に耕す日は何時。」

激しい労働に疲れて
 歸る父母や夫をやさし
 くいたはることは良い
 花嫁のつとめだ。これ
 が又家庭平和の第一條
 件でもあると、夜は飯
 とる夫のためにマツッ
 ーチの勉強をする。

農村の工業化、農村
 の副業の奨励が盛んに
 叫ばれてゐる今日、滿
 洲移民の花嫁にならう
 とするものは、この方
 面にも充分心得て夫の
 良き協力者とならねば
 ならない。

「紡毛作業」「種なひ」
 「質物むき」等も重要
 な滿蒙移民の花嫁課目
 である。



は滴一ソリンガ

燃料部

燃料部第一部 油改課分室



燃料部第一部油改課
五月一日からはお金を山と積んでも、切符がなければガソリンは買へぬ。自動車は走れぬ。そのガソリン切符の割當に乙女たちの指先がはじく軍盤玉の音、記入して行くペン先の動きは恰も戦場のやう。閉口三閉にも足らぬこの分室は軍盤下日本の「燃料節約の機密室」だ。

山と積まれたガソリン、これも殆ど外油ではあるまいか。窓に貼られたガソリン節約のレーベルがじつと見送る。



鐵、石炭、石油は國防上又産業上の三つの重大な資源である。この三大資源は國家の存亡を握つてゐる。
今、我が國は華北一致東洋平和樹立のために戦つてゐる。支那大陸の戦場には我が海陸の軍需が戦都市敵陣の空襲に押しめられ、戦車が軍用自動車に攻撃に送られ、艦隊が支那海に攻撃され、我が艦隊が日夜攻撃を蒙つて海上封鎖の軍大任務に就いてゐる。これらの飛行機、戦車、自動車、軍艦等の近代科學兵器の俾力もその主なる動力源は石油であり、又事變下の緊迫した情勢に應じて目覚ましい活躍をつとめてゐる國內各種重工業

の活躍も亦石油に負ふ所が大きい。このやうに近代戰に石油は絶対不可缺少であつて眞に「石油の一滴は血の一滴である」といはねばならぬ。
我が國では國內には石油資源が至つて乏しく、その産出量は需要量の一少部分を充つて過ぎず、その大半を海外からの輸入に俟つて云ふ心細さである。
政府ではこの見地から、さきには燃料國家を樹立し、石油業の統制、資源の開發、代用燃料の使用奨励、人造石油工業の振興等、石油政策に遺憾のないやうに力めて来たが、今やこの事業上に眞面目に軍需資源を確保するため石油の消費節約は燃

眉の急務となつた。
即ち、事變勃發と共に、所要軍需品の供給を確保し、長期戦に堪え、出師の目的を貫徹するため、各部門に亘つて夫必要な戦時統制が實施され、石油に關しては、既に昨年末以来官民共に自發的に一割の消費節約を實行し、好成績を擧げて来たが、國際情勢は變遷多し、特にその動向は寸時も油斷の許されぬ。今日、軍需品の供給を確保するため、特に「石油節約」の徹底を期すこととなり、去る三月七日揮發油及び重油販賣取替規則が發布され、五月一日からは揮發油及び重油

を購買しやうとする者は道府縣から發行する購買券に依らなければならぬことになつた。
強度の燃料消費節約は産業交通界だけでなく、一般國民生活にも、その及ぼす影響は相當に大きい。が、今や我が國非常の秋、産業交通商業者は勿論のこと、國民の一人々々に至るまではつきりと世界の情勢を認識して、國民精神總動員の總旨を體し、一致協力、目的達成に邁進しなければならぬ。
(新聞は「週報」第八十號附録「節約の可成り重要」を参照)

ガソリン消費の親玉は何と云つても、何千台といふ空タラシが輸入ガソリンを消費しながら徒らに路を疾走してゐる。若し全國のタラシを停止して、駐車して客を待つ。たとへば、一日約三萬ガソリンが節約出来る。(新聞は「週報」第八十號附録「節約の可成り重要」を参照)
又、運轉に際しての一寸し無駄な消費量を節約する。若し諸君が一致協力節約につとめると一日何千ガソリンのガソリンが節約され、これを戦地に活用する飛行機に供給しやうではないか。
所轄警察署燃料係へガソリン券を申請した運轉手たちに「ガソリン券は、一君とては八十二ガソリンだ、一君とては八十二ガソリンだ、一君とては八十二ガソリンだ」が自家用車と古いガソリン切符とをついで大



たとへ一滴のガソリンでも大切にせねば

に車動自ソリガ のもる代



往を運んでおくと、運賃のほかに、このガソリン代もよく
れたバスや、運賃の横に運賃を立てたトラックを見ら
ける。これが、今、ガソリン節約の綱領の線を見る
自動車だ。

丸めた紙屑をついでで火、鼓置した小型扇風機
で薪火や炭火をあほる。



木炭自動車の性能試験
どうすれば木炭自動車がガソリン自動車と同様、或は
それ以上の性能を發揮することが出来やうかと、色々な
様式のもの製造されてゐる。



乗用自動車にも木炭代用が試みられてゐる。



炭火から發生する炭酸瓦斯は發生罐内の高熱層で還元
されて一酸化炭素になる。これに水蒸気を吹きつけると
水素を遊離する。これ等の混合氣體を適當な装置によつて
冷却、淨化して車體下部のガスタンクに入り、更に、機
關部に導かれる。



以前は木炭自動車は坂がのぼれぬと云はれたが、今で
は相當の坂でも悠々登れる。いよ／＼急坂となれば、ナ
クガソリンと切り替へることも出来る。

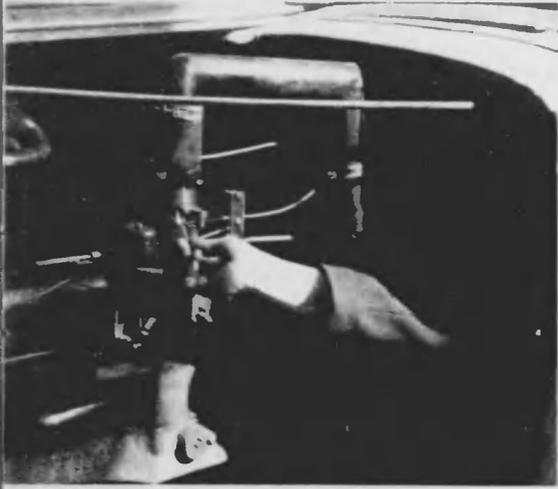


木炭自動車製造工場
普通のバスは約六百圓位で木炭バスに改造することが
出来るが、この半額に政府の補助がある。



その製造は様式によつて少しづつ相違はあるが、今、その一例木炭機式を示す
と、まづ、今までのパイプでガソリンを注入してゐた代りに、木炭を車體後部
の罐につめこむ。

エンジンはガソリン使用のものと同じ、炭火に點
火してから五、六分、ガスは十分發生しエンジンはうな
り出す。眞實は、キヤブレター（酸化器）の空氣導入口にマツチ
の火でガスが充分發生してゐるかどうかを試してゐると
ころ。



ガソリン節約の一翼をうけたまはつて出現した電氣自
動車。



千葉縣大多喜町に噴出する天然ガス。天然ガスの成分は主として一
酸化炭素、水素、メタンガス等で立派にガソリンの代用とする。

ガソリン代用木炭の山
木炭の消費は走行一キロメートル當り、約〇
五キログラム、バス一日の走行百キロとして後
部罐の罐には五十キロの木炭が入るから、朝
一炭木炭をつめておけば一日は大丈夫だ。



ガソリンの代りに天然ガスを使用するガス自
動車も活躍を始めてゐる。無煙に噴出する天然
ガスは體積の容積（ガソリン）に概ね充満され
體の下に積み込まれる。



躍進の満洲



高橋週報 昭和十三年五月十二日 第三種郵便物認可 昭和十三年五月十四日発行 毎週一圓八角日発行 第十二号

往復・回送
 單程
 學生團體
 以上 5131 引

は 細 詳
 へ 所 内 票 滿 鮮 鐵 滿
 同 等 運 賃 同 ルビ九東京
 貨 物 運 賃 同 貨 物 運 賃 大
 貨 物 運 賃 下

滿 鐵 鐵 道 總 局

(本書の大きさは縮定規格A4・週報一付録)